

Interview

外務省 国際機関人事センター
所長

いとうみつこ
伊藤光子さん

「JPO制度」をご存知だろうか
これは、各国政府が給与などの費用を負担して、
国連職員をめざす若者に
国際機関での職務経験を提供するというもの。日本では、
外務省国際機関人事センターがこの事業を実施している。
人事センター所長の伊藤光子さんにお話を伺った。



「日本のJPOはよく働かし、真面目だ」と
なかなか評価は高いです。

難民のために尽くす心、人にサーブする
という気持ちが大切です。

これまでの経歴についてお教え下さい

1981年に外務省に入省し、最初のポストが国連局経済課での国連ESCAPの担当でした。そんなこともあり国連が大好きになり、国連を中心に外務省でのキャリアを積んできたという感があります。87年からはマレーシアの日本大使館に赴任。ちょうどベトナムのボートピープルが次々と到着した時期で、UNHCRの担当としてビドン島の難民キャンプを訪れたりしました。UNHCRとの関係はこの時からです。その後、パリのOECD代表部に配属。94年に東京に戻り、国際社会協力部人権難民課で「女性の地位向上」、北京で開催された第4回世界女性会議、UNICEFなどを担当しました。そして、98年から現職に。これまで色々な国連機関と関わり、そこで働く日本人職員と交流してきましたので、今のポストに来て、多くの日本人職員と再会し、楽しく仕事をしています。

国際機関人事センターとは

1974年に外務省国連局の中に設置されました。国際機関における日本の人的なレプリゼンテーションが余りにも低い、日本人職員を増やす必要があるということで独立したセンターを設置したわけです。設立と同時にアソシエイト・エキスパート(AE) /ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー (JPO) 制度も開始されました。この制度は、日本政府が給与などの費用を負担し、国連職員をめざす若い人を対象に国際機関で原則2年間の勤務経験を積む機会を提供するものです。これまでの28年間に計約1000人を派遣。現在は、毎年65人を派遣しています。女性の志望者が多く、昨年の例では65人中50人が女性でした。国際機関は現在、職員のジェンダーバランス(男女の割合)の改善に努めています。数多くの日本女性が2~3年のJPO任期終了後に正規職員になりますので、国際機関のジェンダーバランスの改善に、日本が一番貢献していると思います。

JPO制度を継続されての成果は?

UNHCRのような国際機関は外部からの職員採用のための空席公告がほとんど出ないので、途中から入ることが難しい。そのため、まず若い人がJPOとして入り、国連のカルチャーに慣れた後で、正規職員として採用してもらうことが非常に重要だと思います。UNHCRの場合は、2002年1月現在、日本人の正規職員49人のうち41人がJPO出身者、つまり、日本人職員の84%がJPOから正規職員になり、その後も活躍している人達なのです。このように、JPO制度は日本人職員の増加に大変効果的だといえます。

国際機関の中では、UNICEF、UNDP、UNHCRの3機関にJPOのほぼ半数が派遣されます。UNHCRの場合は、日本政府が推薦するJPO候補をさらに面接審査します。面接で不合格となる候補もいるので、受け入れ数は多くはありませんが、UNHCRが先に組織にぴったり合うと考えた人を選ぶので、おのずから正規職員になる確率も高くなり、また、ジュネーブ日本政府代表部からの採用の働きかけも功を奏して、昨年の任期終了者はほぼ100%採用されました。

派遣されたJPOの評価はいかがですか?

「日本のJPOはよく働かし、真面目だ」となかなか評価は高いです。

JPOは、人事センター宛に報告書を定期的に提出します。また、国際機関側からは成績評価が送られてきます。それらを一つひとつ読み、参考にしながら任期の延長や

JPO制度について詳しくお知りになりたい方は、国際機関人事センターのホームページ(<http://www.mofa-irc.go.jp>)をご覧ください。

正規職員ポストへの採用支援などを行っています。

JPOを希望する読者のために、応募資格や必要なスキルや心得についてお教え下さい。

募集は例年2月頃から始まり、書面審査、語学審査、そして面接試験を行います。要件で特に挙げたいのは使命感と職務経験です。

UNHCRのように環境の厳しい困難地のポストが多い機関では、ただ漠然と「国際機関に就職したいから」では駄目で、やはり、精神的な支えとなる使命感が必要です。難民のため、恵まれない人のために尽くす心、また、「国際公務員」ですから、人にサーブ(奉仕)するという気持ちが大切です。そのことに生きがいを感じられる人が長続きしますね。

職務経験は、物事を社会的に捉え、しっかりと自分の意見を持つためにも重要です。特にJPOになる前に国連職員として専門としたい分野での職務経験を持っていると、その後のキャリア形成にも大変有益です。

日々、活動的な伊藤さんの「元気の源」は?

いろいろな人の人生に少しでも関わったり、お手伝い出来ることは楽しいものです。「本当に面白い仕事をしています」「自分にぴったりのポストに就きました」「やっと正規職員になりました!」という知らせが来ると本当に嬉しです。これが私の「元気の源」かもしれません。大変やりがいのある仕事です。